



Contents

- P. 1 LSLT2014開催報告
- P. 2 「佐賀の水環境を探ろう」開催報告
- P. 3 夏休みこども科学相談室開催報告
- P. 5 夏休みこども科学教室開催報告
- P. 7 木材活用に関する国際シンポジウム開催報告

第9回低平地に関する国際シンポジウム (ISLT2014) 開催報告

9月29日、30日、10月1日の3日間にわたり、低平地に関する国際シンポジウム (ISLT2014) が開催されました。この国際シンポジウムは、低平地沿岸海域研究センターが事務局を務める International Association of Lowland Technology (国際低平地研究協会) の主催で隔年開催されており、今回で9回目の開催となります。今回のシンポジウムには123編の論文が投稿され、15カ国157名の参加がありました。

開会式では、佛淵学長の祝辞、M. R. MadhavIALT会長(インド工科大学名誉教授)、荒木宏之ISLT実行委員長(佐賀大学教授)による歓迎の挨拶がありました。低平地に関連する著名な研究者による講演「Miura Lecture」では、Dr. F. H. M. Van de Ven (デルフト工科大学名誉教授)による「Water and climate resilience of lowland cities」と題した講演が行われました。さらに、2日目には古賀憲一、外尾一則両佐大名誉教授による基調講演が行われました。低平地の「地盤」「水」「都市」の各専門分野に分かれた研究発表のセッションでは活発な質疑応答が展開されていました。本シンポジウムでは優秀な研究発表を行った若手研究者に Best presentation awardが贈られ、本学都市工学専攻の学生が受賞しました。



10月1日の現地見学ツアーでは、巨瀬川調整池、有明海沿岸道路建設現場、肥前浜宿歴史的街並みを見学しました。いずれの会場でも参加者、特に海外から参加した学生らが熱心に担当者に質問している様子が印象的でした。

ISLTは第4回から佐賀と海外との交互開催となっています。第4回（2004年）はタイ・バンコク、第6回（2008）年は韓国・釜山、第8回（2010年）はインドネシア・バリで開催されました。次回2016年はインドで開催されます。



特別講演会&現地見学会「佐賀の水環境を探ろう(1)」を開催しました

7月11日と12日に、佐賀の身近な水環境や生態系に関する講演会と現地見学会を開催しました。

7月11日（金）には、生物資源学をご専門とする九州大学の鬼倉徳雄（おにくら・のりお）先生

（左写真）に「魚類学者が見た佐賀県の低平地・汽水域の魅力」と題して講演していただきました。

佐賀大学理工学部6号館で行われた講演会には、大学生を含む30名が参加し、九州の淡水・汽水域の生態系の現状を学んでいました。

鬼倉先生は、淡水・汽水域に生息する魚の種類や種の多様さについて研究を進めています。今回は、

佐賀平野に縦横無尽に存在するクリークと魚の種類の関係や、九州地方だけでなく本州の地域も含めた広い範囲での研究結果などを紹介しました。さらに、佐賀市内の

クリークが、環境省によって絶滅危惧種に指定されている魚の生息地として重要であること、農地整備や水路整備の方法によってはその生息地を減少させてしまうことなどから、生物と共存できる環境整備が必要と語りました。ユーモアを交えながらのお話で、参加者のみなさんは聴き入っていました。



翌日7月12日（土）の現地見学会では低平地の水環境に関する施設の見学と水生生物等の観察を行いました。小雨が降る中ではありましたが、13名の方々が参加しました。

佐賀駅をバスで出発して佐賀水ものがたり館を見学したのち、佐賀県有明水産振興センターにて、有明海に生息する生物や漁業について、展示資料などを見学しました。また、佐賀県内を流れる牛津川にて鬼倉先生に投網を実演していただき、捕獲した絶滅危惧種のアリアケスジシマドジョウや金色の婚姻色をしたカワバタモロコを観察しました。

この講演会や現地見学会の参加を通じて、多くの生物が息づく水辺環境の重要性をあらためて知り、我々人間社会と生物生息場との関係を考えるよい機会になったのではないかと思います。



有明海の夏休みこども科学相談室 (自由研究に関する質問コーナー)

低平地沿岸海域研究センターの有明海を研究するグループでは、鹿島市干潟展望館（佐賀大学干潟環境教育サテライトむつごろう館併設）などと協働して、毎年、「有明海」の科学に関するワークショップや講座、展示を行っています。これら協働しているスタッフ同士の会話の中で「有明海の話題を中心として、もう少し自由に子ども達と交流できるイベントは出来ないか」、「ラジオでやっている科学相談室のようなことは出来ないか」、「鹿島市干潟展望館には夏休みに自由研究として質問が来るので、聞きやすい体制をつくったらどうか」というような意見が出ていました。そこで、本年度は定期的に「質問コーナー」を開設してみました。この事業に協働・協力したのは、我々低平地沿岸海域研究センター（有明海研究部グループ）と、鹿島市干潟展望館、鹿島市民立図書館、鹿島市民立生涯学習・文化振興財団、市民団体「まえうみ市民の会」です。

今年度はまだ手探りの状態で、スタッフの参加出来る日程・場所を想定しました。即ち7月20、26日、8月3、9、16、23、24、30日の8日間は鹿島市干潟展望館にて、8月6、21、28日の3日間は鹿島市民図書館で開催しました。鹿島市干潟展望館では10時から16時、鹿島市民図書館では13時から16時の時間帯に開催し、スタッフ1から3名を配置しました。

実際行ってみると、7月は0から2組ぐらいしか質問は来ず、8月の終わりになっても2から5組程度しか集まりませんでした。これは、広報を鹿島市のみで7月中旬からはじめたため、情報が広く伝わらなかったためだと考えています。また、今回はじめての試みで「どのようなことが出来るのか」、「どのように質問をすれば良いのか」と言う点がユーザーにうまく浸透しなかったためとも考えられます。

それでも、質問は多岐にわたりました。例えば、「有明海のゴミはどのように流れていくのか、流れ着くのか」、「有明海にはどんな特徴の生物が棲んでいるのか、実際に観てみたい」、「どのように飼育したら良いのか」、「有明海の問題で一番重大なものは何ですか?」、「海苔養殖はどのように行われているのですか?」のような質問を受けました。これらの質問については、担当したスタッフが資料や本、あるいは実際に生物をみせながら説明しました。場合によっては、直接答えを示さず、ヒントとなるような資料を提示し、質問者自身が考えるように誘導したもありました。このようなイベントをする際、一番困るのが「夏休みの自由研究、何をやったらいいですか?」との質問で、チラシには「自由研究をするための教材は提供しません」としていましたが、やはり数件このような質問がやってきました。質問者にはいろいろと話をしながら自身で課題を見つけて貰いましたが、「有明海のアウトリーチ」としてはいくつか事例や課題を用意し提供しても良かったかなとも考えています。

質問自体は、非常に少なく残念でしたが、質問以外にも来客者・引率にいられた方と様々な交流が出来ました。ご高齢の方からは有明海の昔の話をお伺いすることが出来ましたし、比較的若い方からは「有明海」のイメージや生活や娯楽での関わり方、海の情報などを訊く機会もあり、スタッフとしても参考になるような情報を得ることが出来ました。

「夏休みこども相談室」は、今回が初めての試みであり、かなりの部分、手探りの状態でした。日にちの設定や、提供する資料、イベントの周知方法などかなりの課題をのこしたと考えています。今後、スタッフの中でイベントの反省・整理を行い、来年度に向けた事業を計画するつもりでありますので、今後ともご協力お願い致します。

夏休み期間中、下記の日時・場所で理科、科学、有明海や生物多様性といった質問、自由研究のアドバイスなどの相談コーナーがあります!

7月20日(日) 10:00~16:00 理科 有明海 生物多様性
場所: 鹿島市干潟展望館 2階
担当: 藤井直紀

7月26日(土) 10:00~16:00 理科 有明海 生物多様性
場所: 鹿島市干潟展望館 2階
担当: 藤井直紀

8月3日(日) 10:00~16:00 理科 有明海 生物多様性
場所: 鹿島市干潟展望館 2階
担当: 中村安弘

8月6日(水) 13:00~16:00 理科 有明海 生物多様性
場所: 鹿島市民図書館 (エイブル)
担当: 中村安弘

8月9日(土) 10:00~16:00 理科 有明海 生物多様性
場所: 鹿島市干潟展望館 2階
担当: 藤井直紀

8月16日(土) 10:00~16:00 理科 有明海 生物多様性
場所: 鹿島市干潟展望館 2階
担当: 中村安弘

8月21日(木) 13:00~16:00 理科 有明海 生物多様性
場所: 鹿島市民図書館 (エイブル)
担当: 藤井直紀

8月23日(土) 10:00~16:00 理科 有明海 生物多様性
場所: 鹿島市干潟展望館 2階
担当: 藤井直紀

8月24日(日) 10:00~16:00 理科 有明海 生物多様性
場所: 鹿島市干潟展望館 2階
担当: 中村安弘

8月28日(木) 13:00~16:00 有明海 生物多様性
場所: 鹿島市民図書館 (エイブル)
担当: 中村安弘

8月30日(土) 10:00~16:00 理科 有明海 生物多様性
場所: 鹿島市干潟展望館 2階
担当: 中村安弘

お問合せ先
鹿島市干潟展望館 TEL 0954-63-1723
鹿島市民図書館 TEL 0954-63-4343

注意・その他
・都合により担当者が変更になる場合があります
・メモなどを持ち帰り、筆記用具を持参ください
・人数が多いため、お申し込みの人数が定員を超えた場合は、お申し込みの順番待ちとなります
・あくまで質問を聞き取るものであり、こちらが資料を提供するものではありません
・お申し込み、キャンセルといった電話での対応は致しません
・お申し込みの数が多ければ、予約制を導入する場合があります
・お申し込みの受付は終了しますが、予約制を導入する場合は受付は終了しません
・他の施設や団体等との連携も検討しております

夏休み子ども有明海科学教室 ～海の生物多様性を知ろう～

夏になると海に行く人も増えるということで、夏休みには「体験出来る」学習会を毎年企画してきました。昨年度までは鹿島市干潟展望館との共催で棚じぶ体験や干潟体験、生物の飼育法などを企画してきました。参加者には高い評価を受けるのですが、参加者数が課題となっていました。一方で、夏休みになると他の団体から理科教室の後援依頼があり、そちらには多数の参加者がいらっしやることがあります。例えば、鹿島市民図書館では、「夏休み理科教室」として有明海のお話をしていますが、こちらは定員を上回る参加があります。そこで本年度は、鹿島市民図書館で座学と簡単な実験の見学、鹿島市干潟展望館（佐賀大学干潟教育サテライト「むつごろう館」併設）において有明海に触れる体験学習を合同で行うことによってそれぞれの事業を発展させる試みをしてみました。

目標は「有明海に様々な生物が居ることを知る」ことを挙げて、プログラムを組むことにしました。まず、8月7日には鹿島市生涯学習センター研修室で有明海の一般的な講義を中村安弘さん（鹿島市干潟展望館チーフ）に行っていた後、中村さんにより「有明海の泥の特徴」に関する実験、また併行して、当センター藤井直紀特任助教により、「有明海の海水の特徴」に関する実験を行い、有明海がどんな海なのかを理解していただく体験学習を実施しました。続いて、8月10日には「有明海の生物を探そう～干潟編」と題し、鹿島市干潟展望館前の干潟で生物採集をした後、採れた生物の解説をしました。また、参加者には採れた生物を観察し、鹿島市干潟展望館にある資料を使いながら生物について深く調べていただいた後、模造紙にまとめて、発表まで行ってもらいました。8月17日には「有明海の生物を探そう～水柱編」と題し、棚じぶを使って生物採集をしました。また、棚じぶでは採ることの出来ない小さな生物を得るためプランクトンネットを使った採集をしようとしたのですが、あいにく強風に見舞われ、方法の見学だけ実施しました。採集の後は、採れた生物の解説を行い、前回と同様、展望館にある資料を使いながら調べ、模造紙にまとめて発表して頂きました。これら発表したものは夏から秋の間、鹿島市干潟展望館にて展示をしました。



今回のイベントは台風の影響により、開催が心配されましたが、幸い台風のコースがそれたためなんとか実施することが出来ました。8月7日の座学は、体験実験も含めて2時間程度で、子ども達の集中力も保たれて、比較的内容を密に実施することが出来ました。参加者は25名であり、ちょうどスタッフが対応出来る人数となりました。8月10、17日の体験学習は、12時から17時の5時間に及び、比較的長時間に実施しました。企画段階で「5時間は長すぎる」「もう少しコンパクトに」との意見もありましたが、講義担当者としては「体験を含めると少なくとも5時間以上は必要」と考えていましたので、今回は5時間のカリキュラムとして実施しました。5時間だと小学生の集中力もギリギリであり、参加者としても満足して頂けるような密なものにはなりませんが、講義担当者が期待するような「種の同定」作業を小学生自身が行うというような高度なものは出来ませんでした。また、発表までは高度すぎる、或いは発表までしたので印象に残るイベントになった、などカリキュラム内容にも様々な意見があり、このあたりは担当スタッフの反省点も含めて議論し、来年度以降の事業に活かしたいと考えています。

今回はどちらの回も15種類を超える生物を獲ることが出来ました。中には有明海特産種、減少が気になる種など有明海を解説するのに十分なサンプルを得ることが出来ました。また、おそらく日本の他には居ないであろうクラゲを発見するなど、研究者としても大変魅力的な生物採集をすることが出来ました。まだまだ知られていない「有明海」を市民と一緒に調査する意義があるなど改めて確認しました。

今回のイベントは、鹿島市を中心に広報しました。しかし、予想していたよりも参加者が少なく、後日、太良町など他の関係機関に改めて情報を流しました。去年の座学ではかなりの人数だったのに対し、少なかったことは、募集の方法や拘束時間の問題、他分野のイベントとの競争など、様々な要因があるものと考えています。このあたりもきちんと分析し、参加しやすいイベントに仕上げていく必要があるように思いました。



最後になりましたが、このイベントには佐賀県および鹿島市などの自治体、鹿島市民立生涯学習・文化振興財団、任意団体「まえうみ市民の会」、七浦地区振興会、佐賀県立太良高等学校生物科学部、佐賀県有明海漁協鹿島支所七浦青年部などの地域の機関・団体、マスコミ各社など多くの方から支援していただきました。大変有り難うございました。今後はこの協力の広がりをお願いしながら新たな企画を挙げていきたいと考えております。今後ともどうぞよろしくお願い致します。

木材活用に関する国際シンポジウム（ISWU）開催報告

10月2日にInternational symposium on woods utilization（木材活用に関する国際シンポジウム：甲本達也実行委員長）をアバンセにて開催しました。このシンポジウムは、産学官の研究者・技術者で構成される木材利用研究会（佐賀）が中心となってシンポジウムを企画し、本学低平地沿岸海域研究センター、農学部、ならびに地元佐賀県の建設業関係団体、自治体、林業関係団体の強力なバックアップのもとで開催されました。本シンポジウムでは地球環境保全のための木材活用をテーマとして論文を募集し国内外から18編の論文が投稿されました。当日は国内外から約230人が参加しました。開会式では来賓としてお招きした古川康佐賀県知事、秀島佐賀市長より祝辞をいただきました。口頭発表、ポスタープレゼンテーションでは意見交換が活発に行われており、参加者の木材利用に対する関心の高さがうかがわれました。

田古里川底棲生物調査を行っています

有明海研究グループでは現在、鹿島市干潟展望館、佐賀県立太良高等学校生物科学部と協働して、太良町を流れる田古里川の河口で底棲生物の調査を行っています。今年5月から開始して、月に1～3回のペースで現地調査を行ってきました。これから冬になり、生物は出現しなくなるため、これまで採集した生物の同定、計数などの作業となります。まだまだ調査途中ではありますが、声援いただければ幸いです。



編集後記

12月に入ると、強風の日が多く、なかなか調査に行くことが出来ず苦労しています。昔から、雨男と言われ続けているので、悪天候には慣れています。これだけ荒れると、気持ちがややブルーです。（藤井）

発行・編集

佐賀大学低平地沿岸海域研究センター
〒840-8502 佐賀市本庄町1番地
TEL 0952-28-8582 0952-28-8846
FAX 0952-28-8189 0952-28-8846
ホームページ <http://lit.saga-u.ac.jp>
(平成26年12月25日発行)